

<全体分析>

試験時間

90分

解答問題数

4題

解答形式

全問記述式

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

大問は、いくつかの小設問によって構成されている。

昨年の**1**のような、問題に対する答案が提示されるタイプの問題は出題されなかった。

その他トピックス

前問の結果を踏まえた考察を記述させる問題が出題された。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	式と証明 三角関数	数Ⅱ 数Ⅱ	不等式の証明 加法定理を利用した等式の証明	標準
2	確率	数A	反復試行の確率 確率計算の結果を用いた等式の証明	やや難
3	無限級数	数Ⅲ	区分求積法 交代級数の和に関する考察	やや難
4	図形と方程式	数Ⅱ	垂直二等分線 領域	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

試験時間を考えると、題意を迅速かつ正確に読み取る必要がある。設問は次の設問を解くための誘導になっていることが多いため、最終目標を念頭におき、各設問の役割を意識しながら問題を解くとよい。また、証明問題に関する出題も多く、高い論証力が求められている。日頃の学習を通して、用語、定理、公式を正しく理解しておくとともに、定理・公式については証明まで踏み込んで学習し、自身の考えを数式や言葉で端的に表現する練習を心掛けたい。